

# 苗半作

# 烟苗代に思う

秋の収穫を目指し、様々な栽培方法を考えてみよう

我が家では自家用の苗は自分で播種してパールで管理していますが、その他に農協から3千箱の苗を委託し、管理を始めて20年余りになります。今年も4月24日に出芽苗が運び込まれ、5月10日に搬出されます。16日間で2・5葉12×13cmの規格に仕上げなければなりません。受託をはじめて以来、一回も失敗がなかつたのが自慢ではあります。天候しだいは温度管理を変え、散水量を調節するのは結構神経を使います。

以前は育苗時期も今より多少早かつたので、始めは保温に気を使つたのですが

田植の最盛期を迎えてい  
ますが、今年の苗の生育は  
どうだったでしょうか。風  
の強い日は多少ありました  
が、育苗期間中は比較的好  
天に恵まれてしつかりした  
苗ができたのではないでし  
ょうか。何しろ昔から「苗  
半作」といわれていますか  
ら。

生産日通信

NPO法人  
ミニーションセンター  
定価 100円(送料込)

畑苗代での育苗ですが、昨年の稻株と雑草を土の表面と一緒にノコギリ鎌で削り取り、10cm間隔で巾と深さが1cm位の溝を作り、芽だしをした種糲を蒔いて薰炭をかぶせました。昨年は公園のスタッフの指導で

は水田と畑があり、公園周辺地域の皆さん、「有機農」、公園の講座として「自然農」の二通りのやり方で米と野菜を作っています。自然農は月に1回の講座が年間を通して開かれます。今年は希望者が多くて抽選でした。頼まれて自然農の米作りの部分だけの講師をボランティアでやつていますが面白い体験をしました。

最近ではまつたく逆に早くから開放して、苗が徒長してしまふのを防ぐことに気を使っています。特に、自家用の苗の一部をビニールハウス内で無加温発芽させ、プレーレ育苗していますが第1鞘長を短く抑えるには、早くから夜間も開放してもビニールハウスによる保温効果が障害になつています。ただし、發芽までの日数はハウス内の方が短縮されるのは当然です。



ところが、天候に恵まれたこともあつたのでしようが、私の屋外のプール育苗よりも5日も早く、申し分のない発芽率で一齊に発芽してくれました。私の場合は始めに指導を受けたとおり、アルミ蒸着シートと緑化シートを二重にかけていましたので、日中の温度が上がらず、発芽が遅れてしまつたのだと思われます。ハウス内では有効なやり方が屋外では通用しなかつたということです。講座終了

したが発芽率が極めて悪く、苗が足りなくなつてしましましたが私自身も畑苗時代は初めての経験ですのでまつたく自信がありませんでしたし、特に保温材に何を使うか迷つていきました。常時管理できないのですから、高温障害を防ぐことと除去のタイミングをあまり気にしなくてよいのではないかということから、不織布を使うことにしまし



は目的ではなく、あくまで  
も手段に過ぎません。育苗  
様式にしても水苗代からさ  
まざまな変遷を経て現在の  
主流はハウス育苗でしよう  
が、プレル育苗も普及しつ  
つあります。それぞれに長  
短がありますが、自分自  
身の労働力配分、必要とす  
る苗質や葉齢、田植時期等  
によつて選択すれば良いの  
ですが、それぞれの育  
苗様式

後のミーティングで受講生が「色々な作業一つ一つにちゃんと理由があることがわかりました。」と発言していましたが、まつたくその通りです。田植は5月3日に予定されていますが、やり方は不耕起のまきの田面に草刈鎌で穴を開けながら苗を差込み、その後に入水して水田にします。米作りは八十八手間と言われるほど多くの作業があります。その作業一つ一つ



(内山常蔵記)

HP <http://www.eco-rice.jp/>

E-mail eco-net@nekonet.ne.jp

